

科目責任者 川北 晃司（倫理学研究室）

■ 教育目的

社会学、倫理学・研究倫理、薬害・医療安全、周産期・新生児医療、プライマリーケア、薬局・病院経営への貢献、医師・歯科医師との連携など、幅広いテーマを扱うことで、現代社会における医療者に必要な問題意識・思考力を涵養する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑤】

■ 学習到達目標

1. 医療者に必要・有用と思われる人文・社会科学の素養・思考法を身につける（知識）
2. 現代医療における諸問題を把握する（知識）
3. 医療人としての問題意識を持ち、自ら考える力を伸ばす（知識、技能、態度）

■ 準備学習（予習・復習）

予習：日頃から医療に関するニュースに関心を持ち、現代日本の医療界における問題を把握する。参考書の該当箇所があれば読んでおく（30分）。

復習：各講師の指示による（指定 HP の参照など、30分以上）。

■ 授業内容

社会学と倫理学の教員による企画運営であるが、授業内容は人文社会科学の枠にとらわれずに、医療関係実務経験者を主とする多様な講師（薬害被害者団体理事長、医療安全コーディネーター、医師、歯科医師、病院薬剤師等）から医療安全や医療者としての心得などを学び、学生は毎回レポートを提出する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入	本授業概要・注意事項説明等	
2	医療倫理	医療倫理関連事例考察	A(2)-2-2
3	薬害 (1)	薬害サリドマイド事件が問う医療のあり方～薬害被害者の立場から～	B(1)-4-3
4	薬害 (2)	妊婦・授乳婦が薬を使うときに好ましくない事象の発現を如何に防ぐか	C15(3)-3
5	医療過誤 (1)	患者と医療従事者をつなぐ取り組み～医療過誤被害者の立場から～	C18(1)-1-2
6	医療過誤 (2)	患者と医療従事者をつなぐ取り組み～医師の立場から～	A(3)-4
7	病院薬剤師 (1)	病院薬剤師業務のこれまでとこれから	A(3)-4
8	病院薬剤師 (2)	病院経営における病院薬剤師の貢献	C18(2)-3
9,10	歯科診療	患者と歩む「予防＋治療型」歯科診療	C11(3)-3
11	睡眠学	社会環境と睡眠の問題～医療従事者として知っておきたいこと～	A(2)-1 C11(3)-4
12	地域医療	地域医療における薬局薬剤師への期待～クリニック院長の立場から～	A(3)-5
13	DV 被害者支援	DV 被害者支援と医療従事者の役割	A(3)-2-2
14	総括	本授業を振り返ってのまとめと補足	

■ 授業分担者

高野 麻子 (No.1、14)、川北 晃司 (No.2)、石川 洋一 (No.4)、駒田 陽子 (No.11)、学外講師 (No.3、5～10、12～13) ただし分担者の担当順、及び授業内容は変更する場合がある。

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：講義や課題レポートに関する質問等を個別に受けつけ、解説・説明をする。
成績評価方法：各回の課題レポート提出分を合計評価する（レポート 100%）。

■ 教科書

教科書は使用せず、適宜レジュメを配布する。

■ 参考書

小松楠緒子・川北晃司編著『くすりと社会』北樹出版（2014年）